

戦後50年と 民主主義の可能性

◇日時／6月10日(土)
15:00~18:00

◇会場／名駅キャンパス18号館名駅校
4階42教室

◇報告Ⅰ／今井弘道 (北海道大学法学部教授)

報告:〈市民的政治文化〉と人権・権利

——憲法理念の具体化運動のために——

◇報告Ⅱ／樋口陽一 (上智大学・前 東京大学法学部教授)

報告:思想と制度としての人権の定着の可能性

◇紹介／公文宏和 (倫政・小論文科講師)

植田雅之 (英語・小論文科講師)

今年は、戦後50年の節目に当たる。50年まえの日本のポツダム宣言受託という歴史的経験は、何だったのだろうか。この経験に対して、さまざまなアプローチが可能であろう。ぼくらは、この経験を、日本における民主主義定着の画期的に新しい第一歩が始まった事件と考えることにした。こう捉えたポツダム宣言受託から50年の節目に当たる時点で、今日における日本の民主主義の現状を改めて考え直している価値は、大いにあると考える。

近年の政界の流動化、国民の投票行動の変化など日本の民主主義の現状は、大きな転回点にさしかかっていると考えることが出来るだろう。この転回が、何に根ざして、どこへ向かっているのか、改めて考えてみるために、ぼくらは、お二人の先生をお招きしてシンポジウムを企画した。

今井先生は、最近、河合ブックレットから『〈市民的政治文化〉の時代へ—主権国家の終焉とグローバリズム—』

を出版されて刺激的な問題提起をされた法哲学者である。新しい論点も含めて、鋭い問題性を示していただけるものと期待している。

樋口先生は、二つの岩波新書『比較の中の日本国憲法』と『自由と国家』で受験生には、なじみの?苦しめられた?先生である。この二つの新書は、小論文・現代国語の頻出文献である。簡単に読み飛ばせる本ではない。しかししがみついて読み抜いて、目を開かれた受験生も多いだろう。先生の問題提起を、新しい論点も含めて、改めて伺えることを期待している。

お二人のお話の後、フロアーの受験生の質疑応答も含めて活発な討論を期待している。受験勉強の合間の息抜きとしてではなく、受験勉強の射程距離を伸ばすものとしてこの機会を大いに生かしてほしい。

9年目の チェルノブイリの 子供たちと NGO活動

1986年4月26日、旧ソ連邦、ウクライナ共和国にあるチェルノブイリ原子力発電所四号炉で爆発事故が起きた。原子炉内の放射性物質は空高く舞い上がり、風により、各地へ拡がり、2週間あまりでほとんど地球を一周するという大惨事が起きた。

事故直後に31人の消防隊員や職員が犠牲となり、命を落とした。放出された放射性物質の量は1945年8月に落とされた広島原爆の500倍を超えるといわれている。

放射能汚染のひどい地域では強制移住が実施され、農地も、家も、学校もすべてが捨てられた。村の入り口には核マークのついた「立ち入り禁止」の立て札が立てられ、地図からも姿を消し、「埋葬の村」と呼ばれるようになった。

病院では子供に甲状腺障害や白血病など病気が増加。何もわからないまま放射線を浴び、何の抵抗もなく、その体で受け止めた子供たちは今日も苦しんでいる。そしてその親たちの苦しみは察するに余りある。

1990年の秋、ロシアに住む友人からSOSが届く。「子ども達に事故の影響と思われる病気が多発している。自国の力だけではどうすることもできない。日本の進んだ医療で救ってもらえないだろうか。」必死の訴えに動かされた高橋さんと鎌田さん(長野県諏訪中央病院院長)は翌年1月、現地視察へ向った。帰国後、2人を中心に「日本チェルノブイリ連帯基金」を創立。これまでに25回の現地訪問をし、信州大学を中心とした医療専門家チームと共に医療活動を行っている。その活動と出会ったロシアの人たちとのふれあい、NGO活動のあり方について、スライド上映をまじえて話していただきます。

(阿木幸男)

※NGO:Non-Governmental Organizationの略。非政府組織の民間活動。近年、カンボジア、フィリピン、タイ、アフリカ、ロシア等で数多くのNGO活動が展開されている。

日時/5月29日(月) 17:00~19:30

会場/千種校本館6階 SDPホール

講演/高橋 卓志(神宮寺住職・日本チェルノブイリ連帯基金事務局長)

司会/阿木 幸男(英語科講師)

●講演者プロフィール

「原爆の図」で有名な丸木位里俊の作品を本堂に掲げる国内でも稀な、神宮寺の住職を務めるかたわらロシアでの民間医療活動に日夜貢献。ボランティア団体、グループのネット・ワーカーを努め、あの阪神大震災の際には、民間ボランティアのコーディネーターとして活躍。その元気印の活動はテレビ東京のドキュメンタリー番組で紹介される。



狭くなる地球と 君達の未来

●日時/6月18日(日) 14:00~16:00

●会場/河合塾千種校体育館

●講演/和田^{たかし}俊
(朝日新聞編集委員・テレビ朝日系「ニュースステーション」出演)

●司会/日比野 智
(国語・小論文講師)

講演者プロフィール



1936(昭和11)年中国・広州市生まれ。東京大学法学部卒。59年、朝日新聞社入社。プノンペン支局長、パリ支局長、ヨーロッパ総局長等を歴任。

現在、朝日新聞編集委員。またテレビ朝日系「ニュースステーション」の月曜～木曜日に出演中。

主な著書「クメールの微笑」(朝日新聞社)「パリの石畳」(朝日文庫)「パリの四角い空」(講談社)「欧州知識人との対話」(朝日新聞社)等。

20世紀も終りに近づき、世界は激しく揺れ動いています。私たちの周りには溢れんばかりの情報が飛び交い、その前で呆然と立ちすくむばかりです。そんな世界を優しい語り口で説きあかしてくれる和田さんをテレビで見ている人は多いと思います。

私が和田さんと出会ったのは15年も前のことです。アルバイトで働いていた朝日新聞のパリ支局長が和田さんでした。様々な体験、豊富な知識に裏打ちされた確固たる意見、スケールの大きな視野、各国の要人、文人との幅広い交際、世界観等、和田さんとの2年半は、右も左も判らない私にとって、毎日が新鮮な驚きの連続と同時に、全く異った局面から物事を眺め、考える視点を学ぶ生きた教室でもありました。

今回の講演が小さな世界に安住している私達に衝撃を与え、大きな世界との出会いの場となることを、そして、テレビでは窺うことのできない和田さんの魅力を十分に味わって欲しいと希っています。

(日比野 智)